

大学自治空同化と学生自治抑圧を矯す 文教委本学視察の特例法の布石(実力阻止)

教育大学の里この学長諸君が6月26日以降、6・28
決定白紙撤回、対評議会大衆田交更項、MPO委解散、
筑波移転止のスローカーの下、本館封鎖を筆軸として
ストライキ同争を繰返し、夏休みといつ困難をかか
りゆき、ピリット、警備を巡り、このなかの激闘時
品物を準備し、中々反りてくる文教委動向を警戒し、
24日に予定之水でいる参議院文教委を本館察見実力阻止
緊急行動に五給するものと断える。

《文教委の視察は大学上層部
への权限集中(就中華務局長
への)と学生自治抑圧の布石
だ!!》

今回の文教委視察は、一体いかなる意味を指すのか
この以て、適格的には「管理权の明確化」の名の下
に大学上層部、就中華務局長の权限集中化を討つ特
例法の布石であるのだ。この面の筑波同争の過程を
たつきりと追憶すれば如く、筑波段の自治をたこま
とて認めつつも、学長、評議会への权限集中、羊山
局長の权限拡大を通じて政府文部省の文脈が濃縮し
て来ているのだ。

この背景は「二の同敷突」している。この同敷突が
政府文部省のハタモ二一の懸念「対する断りたる反撃
として履時」にあり、政府文部省の懸念を在りして
いる。以上の正史論、社会的状況がある。この懸念は
けいりたりの。二の同敷突を主体とした文教政策の
の早通しは「対して、政府が、海軍、税関への補助金
を停止する」が、この同敷突の目的は「この同敷突」
として学生自治をたこま。この同敷突の懸念は、学
生自治の、大学上層部の権限集中、その目的は
を強力に推進しているのだ。その、10.28日田岡等又
等、学生自治の権限集中を断り、学生自治の、学生

自治の対抗性、政治性の高化に対し、学生を被壓
理者におしよとの、学生自治への圧力面体にて表勢化
可能な手段の確保。予の鎮静処置を二つして
いる。二つはきわだたむ。第一、今回の参院文教委
の本学視察は極度の反社会的行為を持つたかであ
り、教育大一大学への反響、抑圧にとどまらず、日本
学生運動界への反響、強きである。これを教育大の全
ての学生が自覚して拒否するべき。

全国学友の支援に起ち、文教
委視察を実力阻止せよ!!

かかる大学自治空同化と学生自治抑圧を断する特例法
の布石は文教委視察にあり、我々曰く「二つの同敷突
の布石」阻止行動をたこま。本館が、国大反響
線の外域であり、文教委視察を承認するようなら文部
省の懸念は「この位置」にあり、我々学生
「二つの同敷突」にあり、絶対的拒否し得られ
た。又、その口五の里東大の反イールを前
身が反レドバ、この同争の口火を知つた如く、教育大
學生が全国百万学友の支援に立つて、反政府を実力
阻止し得る。正史論的懸念を持つ二つの同敷突を断り、確
認し得る。この同敷突は、

教育大の里この学長諸君、
我々の筑波移転阻止をのびスライキ同争の絶対
的正当性を確認すると同時に、あらゆる国家権力の抑
圧、挑発制を断り、実力阻止斗争を展開する。二つ
を、文教委視察は明確に拒否する。

行動提起

本館 筑波同争特刊「文教委視察」
20日 終括討論 例7じ、於94406
30日 同争本誌 例7じ、於94406

PM.100~
本館